

中部E S D拠点運営委員会（第27回）議事メモ

日 時 平成22年6月29日（火）18時30分～20時20分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（8-C号室）

出席者 竹内委員長、寺井、羽後、武者小路の各委員

事務局 古澤、岡本

議 事

1. 報告事項

- 古澤事務局員より、RCE ジョグジャカルタのメンバーであり、ガジヤマダ大学講師のEKO氏ら2名が来日し、中部大学・名古屋大学・RCE中部の活動内容の視察を行ったことが報告された。EKO氏らは、前週にマレーシアのペナンを、次週に韓国のトンヨンを訪れ、RCE間や大学間の連携の可能性を模索している。テーマとして、生物多様性に関する地域間の情報共有を考えている。具体的には、マレーシアのペナンで食糧危機等の食料問題、薬草などの遺伝資源に関する情報共有、蘭の研究などの連携を話し合ったとのことであった。中部地域では、愛・地球博記念公園に10月にオープンする地球市民交流センターや、自然体験のワークショップを公園内で提供している森の学舎などを視察した。また、ラムサールの認定を受けている藤前干潟を視察し、活動センターで干潟保全の活動についての説明を受けた。
- 古澤事務局員より、中部大学国際E S Dセンターのニュースレター「中部大学E S D通信」の第3号が発行されたことが報告され、配布された。

2. プロジェクトの進捗について

- 「サイバー対話」の進捗状況について、武者小路委員より報告・説明があった。日本語で展開されているi-dialogサイトと、英語版のCyber Dialogueのサイトを繋ぐための翻訳にかかる費用の確保が懸念されていたが、中部E S D拠点推進会議で申請していた地球環境基金の助成の採択が決まり、翻訳費に充当できることが報告された。また、CBD市民ネットワークの運営委員会にてi-dialogの説明を行い、理解を得ることができた旨の報告があった。サイバー対話の具体的な内容として、ヴァンダナ・シーヴァ氏からバイオパイラシーに関する興味深いリストが送られてきたため、サイト内に掲示している。また、RCE関係者もアジア・アフリカなどから徐々に参加が増えている。
- 生物多様性条約締約国会議COP10の「生物多様性交流フェア」への出展申請に関して、古澤事務局員より進捗状況が説明された。ブースおよびフォーラム会場の募集は6月末が締め切りで、それまでに間に合うように申請を行う。ブースは基本サイズを2ブース、3週間の予定で申請を行う。フォーラム会場に関してもすでに募集が始まっており、事実上、先着順に埋め込み作業を行っているとの情報から、事務局で2つの申請を行った旨が報告された。当初から予定して

いたCEPA (Communication, Education, Public Awareness) の土曜日・日曜日は希望者が多く、倍率が高いために使用できる確率が少ないため、国内RCEでのMLでも確認の上、18日(月曜日)で申請を行った。また、会場使用の時間枠に関して、大ホールでは2枠を連続で使用することができないため、大ホールと小ホールをそれぞれ、連続した時間枠で申請を行った。

また、ブース出展の費用に関しては、国連大学から半分の6万円は支援するという連絡を受けた旨が古澤事務局員より報告された。中部大学として、残りの6万円をサポート出来る可能性もあるため、今後、国内RCEメンバーと協議することとした。なお、ブースのアテンダントに関しては、運営委員の各所属団体が2日間ずつ担当するなどして3週間を埋め込むこととした。

3. 第5回中部ESD拠点連続講座について

- 次回連続講座の広報について、愛知県や名古屋市の教育委員会に情報を流してもらうこととした。また、新たに教育をテーマにシリーズを始めるにあたって、第2回以降の進め方に関して議論を行い、第1回：フォーマル(初中等教育)、第2回：ノンフォーマル(9月開催)、第3回：フォーマル(大学教育：総会時に併催)、第4回：ノンフォーマル(1月開催)という順番で開催することが望ましいのではないかという結論になり、千頭副委員長、新海委員に確認することとした。

4. その他

- 次回の中部ESD拠点総会の開催に関して意見交換を行った。事務局が今村委員に打診したところ、岐阜大学での開催は極めて難しいとの返答をいただいたが、市民セクターで、例えば岐阜NPOセンターなどが開催場所の候補として考えられるとの情報が提示された。また、連続講座のテーマを総会のテーマとするならば、テーマの第一候補は「フォーマル教育：大学教育」とし、第2候補を岐阜の長良川流域の活動など、市民セクターの活動に焦点を当てることとした。また、開催会場に関しては、引き続き今後も最適な可能性を探ることとした。

- 生物多様性COP10のブース出展者募集を協議会参加団体に流す際、質問紙をつけることとしたが、その内容に関して意見交換を行った。活動内容に写真データなどを添付してもらうことで、パネル作成にも活かすことができるように工夫することとした。

- 竹内委員長より、COP10支援実行委員会が企画を進めており、中部ESD拠点を代表して竹内委員長が参加している「社会と学術のフォーラム」の概要の説明があった。また、飯吉厚夫拠点代表がクロージングの挨拶をすることが決まった旨も報告された。

- 次回日程は、7月27日(火)の18時半から20時半までとし、以降の候補日は、毎月の最終週火曜日を基本とすることとした。

以上